

自動車堅調、住宅には天井感？

アルミ地金は増、スクラップは減

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート ②

■概況

十一月前半は十月の中国鉱工業生産は前年比一〇・三％増加、予想の一〇％増を上回り、十月の中国小売売上高は前年比一三・三％増加。一・十月の中国の不動産投資は前年比一九・二％増加、販売額は三二・三％増加で不動産投資は継続しているとの見解がでるなど好材料があったものの、注目の十月のアメリカ雇用統計で非農業部門雇用者数が二〇・四万人増加と予測の二〇万人を上回ったことを好感する反面、金融緩和縮小の可能性も高まったことや、九月十二日開催の第一八期中央委員会第三総会で習近平指導部が初めて独自政策方針を出したものの期待外れだった失望感から、LMEアルミ相場は大幅下落、一・七九二ドル(現物後場買い)と前月最終価格から一四ドル下落しての前半締めとなった。

後半は一月の独ZEW景気期待指数は五四・六に上昇、イランの核開発問題を巡る同国と主要六カ国の暫定合意を受けて、中東情勢の緊張が和らいだこと、ドイツのifo指数が一〇九・三と予測を上回ったことや先週のアメリカ週間失業保険申請件数が良かったことなどプラス材料はあったが、日米の株高を受けての過剰流動性資金シフトからアルミは下落。

十一月三十日現在、LMEアルミ相場(現物後場)は一・七九二ドルと前半締めから三〇ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一〇・一％増の八七万一千四三台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一三・三％増の二七万六、三九九台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・一％増の九万〇、二二六戸であった。

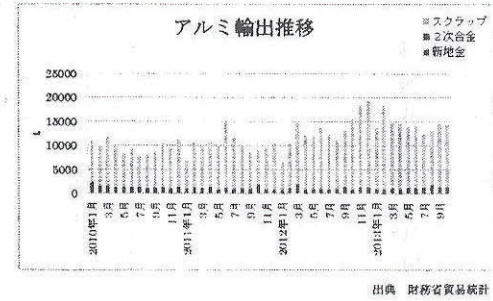
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比七三・五％増の二〇三t、二次合金が七三・五％増の一、二二八t、スクラップが一

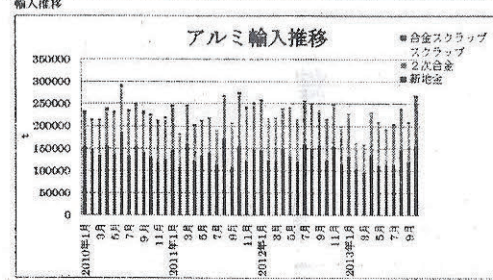
一・五％増の一萬三、〇〇二t。

輸入は新地金が前年比二七・一％増の一五万六、八四〇t、二次合金が二一・七％増の一〇万六、九六六t、スクラップが四四・五％減の六五六t、合金スクラップは二八・八％増の五、〇九t。

	8月	9月	10月
新地金	158 t	265 t	203 t
前年比	+9.7%	+14.1%	+73.5%
二次合金	1663 t	990 t	1128 t
前年比	+85.6%	-11.3%	+73.5%
スクラップ	1156 t	1330 t	1300 t
前年比	+14.4%	+12.6%	-11.5%
輸出推移			



	8月	9月	10月
輸入			
新地金	14万8001 t	11万9996 t	15万6940 t
前年比	1.1%	-23%	+27.1%
二次合金	8万7062 t	8万4754 t	10万6966 t
前年比	-11.7%	-11.8%	-21.7%
スクラップ	613 t	741 t	656 t
前年比	-5.6%	-28.6%	-44.5%
合金スクラップ	4299 t	3773 t	5009 t
前年比	+57.5%	+28.1%	+58.8%
輸入推移			



■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・三％増の一七万七、〇八一t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比七％増の七万四、九五一tであった。(六面へ続く)

国内のスク
ラップ相場 LME安を円安、
(四面より続く)

需給逼迫が相殺

クラップが一・五%減の一萬三、〇〇二t。円安を背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比二七・一%増の一五万六、八四〇t、二次合金は二一・七%増の一〇万六、九六六t、スクラップは四四・五%減の六五六t、合金スクラップは二八・八%増の五〇〇九t。地金系はやはり円安を背景に大幅輸出増。また輸入も住宅、自動車生産の増加を受けて大幅増。

【アルミ需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比七・一%増と一四カ月連続増加、持家一七・六%増、貸家三・三%増と大幅増。ただし分譲住宅二・七%減と六カ月ぶり減少。やや天井の感もあり今後の動向に注意。

待望の自動車は生産が二カ月連続上昇の一〇・一%増。さらに十一月の国内販売台数が前年比一三・三%増と大幅増。前月に続き予測の通り販売増につられて生産が増加。

住宅の動向は要経過観測だが、消費増税前のかけ込み需要から住宅、自動車需要の二本柱が上昇し今後供給不足が拡大する可能性が高い。

【アルミ価格に関して】

今月は日米の経済指標及び金融政策に左右される。

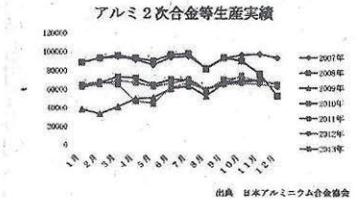
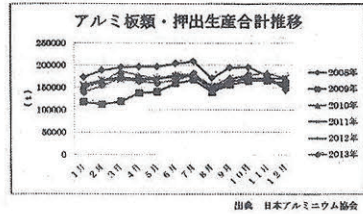
新規材料難の中、今年も残りわずかとなり日米株価が堅調に上昇していることから、それらに水を差すようなアメリカの金融緩和縮小開始が年末に行われる可能性が少なくなった。(行われるとすれば債務上限期限の二月七日以降?)

両国の経済指標に関してだが、株高、円安、消費増税前駆け込みなどの好材料から底上げもあり、相対的には堅調な結果が出てくるとの予測。それらを踏まえた価格は、十一月後半高値付近一、八〇〇ドルを予測。

下値はFRBによる金融緩和縮小開始が起こった場合、十一月後半安値の一、六九〇ドル割れを予測。

スクラップ価格については、前記条件によつてLME価格が先月から一〇〇ドル程度下落したものの、円安や住宅、自動車販売の堅調や消費増税前の駆け込み需要からの需給ひっ迫から相殺され〇・五円上昇との予測。

為替はアメリカ株の最高値更新に伴う底上げ効果からのドル高円安予測から、もう一段円安の一〇・一〜一〇・三円との予測。



■見通し

十一月は中国第一八期中央委員会第三総会で示される習近平指導部の初めて独自政策方針の内容と日米株価の急騰に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比一〇・一%増の八七万、四三四t。二カ月連続プラス。乗用車九・六%増、トラック一四・九%増、バス二・八%減。販売の方は三カ月連続前年超えの前年比一三・三%増。乗用車一三・四%増、貨物一二・四%増、バス四・九%増。

新設住宅着工戸数は先月に続き一四カ月連続増加。前年比七・一%増(季節調整済み前月比〇・七%減)の九万〇、二二六戸。今月も好調であるがややピークを過ぎた感じもあり。持家一七・六%増、貸家三・三%増、分譲住宅二・七%減と六カ月ぶりの減少。

自動車関連のアルミニウム二次合金生産は前年比七%増と四カ月連続プラス。

圧延・押出品生産数は二・三%増の一七万七、〇八一t。二カ月連続プラス。

圧延に関して、缶材は〇・一%減。一部製缶メーカの在庫調整のため。

自動車は七・二%増。前年の数字がエコカー補助金制度終了の影響で低かったのに加え、消費増税前の駆け込み需要に伴う新車販売台数の好調により二カ月連続でプラス(十月の新車販売台数・四二万二千台、対前年同月比・一七・三%増)。輸出は七カ月連続マイナスの一七%減。中国・東南アジア向けを中心に需要は低調で、七カ月連続でマイナス(通関統計による九月のタイ向け輸出・三、五〇〇t、対前年同月比・一八・〇%減)。

輸出は新地金が前年比七三・五%増の二〇三t、二次合金が七三・五%増の一、二八t、ス